2022.1.13　No.79

文教大学の授業

文教大学教育研究所
埼玉県越谷市南荻島3337
℡ 048-974-8811 〒343-8511

中国の大学とのオンラインによる日本語教壇実習：「日本語教育実習２」

文学部　荒 井　智 子

千葉県出身。2008年に博士号（応用言語学）取得。専門分野は日本語教育。台湾の大学で18年間教鞭を執った後、2019年文教大学文学部に着任。日本語教育学３・４、日本語教育実習２、日本語教育事情、卒業研究などの学部の科目のほか、言語文化研究科修士課程のコミュニケーション特論、言語情報処理特論、外国人留学生別科の精読クラスを担当している。（あらい ともこ）

文学部では、将来日本語教員を志望する者のために日本語教員養成コースを設け、文化庁が定める単位数によって「日本語教員養成コース１級（主専攻）」「日本語教員養成コース２級（副専攻）」、文教独自の「日本語教員養成コース２級」の資格取得ができる。「日本語教育実習２」は１級（主専攻）の実習科目で、毎年２月に中国の大学で２週間の教壇実習を行っている。

文教大学の日本語教員養成コースには、実習先が異なる実習授業が複数あります。文教大学の外国人留学生別科、地域連携センターの外国人のための日本語講座のほか、まつぶし日本語ひろば、韓国の極東大学校研修、オーストラリアの大学、中国の大学など、国内外問わず、実習先はさまざまです。学生は自分の希望に合わせて実習授業を選択します。今回は、この中の中国実習の授業について紹介したいと思います。

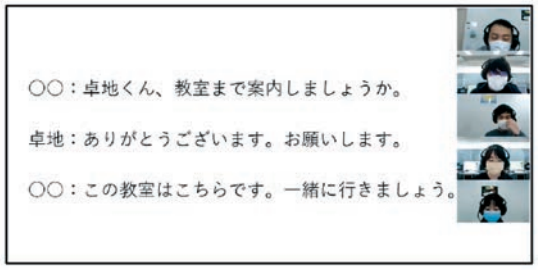
中国実習は今年度（2021年度）で29回目になります。現在の実習先である中国河北省の東北大学秦皇島分校語言学院には、2016年度から毎年10数名の実習生がお世話になっています。日本語教育研究室の２名の教員が１年ごとに交代で指導と引率をしています。2019年と2020年はコロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止になりました。今年度もまだ収束の目途が立たないため、現地に行かずにオンラインで実習を行うことにしました。今年度の履修生は文学部３年生９名（日本語日本文学科４名、中国語中国文学科５名）です。では、授業の目標や概要について説明し、実習生９名に行ったアンケート結果について紹介します。

１．授業の目標

授業の到達目標は「異文化の中で日本語教育実習を体験し、日本語教師としての資質を養うこと。また、現地の学生との交流を通し国際的な視野を身につけ、中国文化理解や中国の日本語教育事情を理解すること」です。現地に２週間滞在して実習を行う場合は、中国の大学の先生方や学生たちと交流をする機会が多くあります。しかし、オンラインによる実習ではこの目標がどこまで達成できるかが挑戦です。可能な限り、実習生には日本語教師として必要な異文化コミュニケーションの力を身につけさせ、日本や日本語に対する新たな気づきや感動が体験できるようにしていきたいと思っています。

２．授業の概要と流れ

2021年度秋学期には実習授業の準備を行って、2022年２月下旬から３月上旬にオンラインによる２週間の実習を予定しています。実習生はひとり50分間の教壇実習を２回以上行います。まず秋学期の授業では、東北大学秦皇島分校で使用されている日本語の教科書『綜合日語』２課分のシラバスを作成した後に、担当者を決めて教案作成とマイクロティーチングをします。実習生のほとんどは日本語教育の教案を作成するのがはじめてで、授業の導入の仕方や日本語の文型や文法を日本語で説明することに戸惑ってしまいます。また日本語学習者が未習の日本語は使わずやさしい日本語だけで教えることがいかに難しいことか実感するようです。ひとつひとつの言葉が未習か既習か調べながら教案を丁寧に作成していきます。マイクロティーチングでは、クラスの実習生が日本語学習者の役になって、ひとり15～20分間の授業を行います。何度も練り直した教案であっても、自分の思っていたような授業展開にならないこともあり、自信を無くしてしまいそうになりながらも、クラスメートとアイデアを出し合いながら練り上げます。その過程でクラスの結束が強まっていくようです。12月中には教案を完成させ、本格的に模擬授業をしていく予定です。オンラインになったせいでできなくなってしまったことに目を向けるのではなく、オンラインだからこそできることは何かを模索しています。中国の大学生たちにとって日本語の勉強に役立つような授業ができることを目指しています。



３．履修生に実施したアンケートの結果

実習生９名に中国実習に関して３つの質問をしました。以下は回答の一部です。

Q1. オンライン実習になったことについて

A1.ちょっと残念な気持ちになりました。初めての実習は学生と同じ空間にいることが出来ないので、自分は学生とうまくやりとりができるかどうか心配です。

A2.対面でリアルな反応をこの目で見たかったし現地の空気感も感じたかったが、オンラインだからこそできることを探して行けたらなと思っている。

A3.正直、私は、オンライン実習でなければ、この実習は受けられませんでした。コロナの関係やお金の面で、現地実習であれば、この実習は受けない選択をしました。日本語に馴染みのない環境で日本語を勉強している学習者と授業を一緒にできるのは、なかなかないことなので、オンラインでも経験できるのでよかったです。

Q2. 実習の準備段階の今の気持ちについて

A4.とても不安な気持ちもありますが、もうやるしかないと思っています。少しでも良い授業ができるようにたくさん調べたり聞いたり、周りの方々と協力したいと思っています。

A5.いよいよ自分の担当する部分の教案を作るので、心がはずんで落ち着かないです。でも、模擬授業での失敗が忘れられない、またシラバスを作っているとき、みなさんの真剣な姿を見て、自分はもっと頑張らなければならないと感じました。

A6.自分が授業できるか不安だが、それ以上にどんな感じなのかワクワク感が強い。そして気を引き締めてやっていかなければならないと思っている。

Q3. この授業に期待していることについて

A7.日本語教育に関わる仕事に就きたいと思っているので、この授業で経験を積んで将来の仕事に活かしたい。

A8.実際の日本語教育の現場を見てみることだけでなく、自分が実際に教えてみる経験を体験して、進路を考えることができたらいいなと思っています。また、この授業をとっているみんなとお互いの能力を高め合うことができたらいいなとも思っています。